MEE

MELSEC-Qシリーズベーシックモデル
QCPU対応プログラムローダEQLDR01用
データ変換ユーティリティ機能ソフトウェアパッケージ
形名
EQLDR1QC-UTLW

オペレーティングマニュアル

EQLDR1QC-UTLW

● 安全上のご注意 ●

（ご使用前に必ずお読みください）

本製品のご使用に際しては，本マニュアルおよび本マニュアルで紹介している関連マニュアルをよくお読みいただくと共に，安全に対して充分に注意を払って，正しい取扱いをしていただくようお願いいたします。

A－1

改 定 履 歴

※取扱説明書番号は，本説明書の裏表紙の左下に記載してあります。

印刷日付	※取扱説明書番号	改　　定　　内　　容
2006年10月	50EM8665-A	初版印刷

本書によって，工業所有権その他の権利の実施に対する保証，または実施権を許諾するものではありません。また本書の掲載内容の使用により起因する工業所有権上の諸問題については，当社は一切その責任を負うことができません。

© 2006 MITSUBISHI ELECTRIC ENGINEERING COMPANY LIMITED

A - 2

ソフトウェア登録のお薦め

「ソフトウェア使用契約書」の内容を承諾いただいたあと，誠にお手数ですが，ユーザ登録を行ってくださいますようお願い申し上げます。（登録にかかる料金などは一切不要です。）
同梱の「お客様登録用紙」をFAXまたは郵送していただくことで登録いただけます。

(1) ユーザ登録

同梱されている「お客様登録用紙」をFAX，郵送していただくことにより，ユーザ登録を行うことが可能です。
弊社でユーザ登録後，ユーザIDを送付致します。
この「お客様登録用紙」に御記入の個人情報は，新製品ニュース，バージョンアップ情報，その他催しなどの最新情報をEメールもしくはFAXまたは郵送にて送付させていただくために利用させていただきますので御了承ください。

(2) お問い合わせに際しての注意事項

お問い合わせの内容はマニュアルで使用されている用語で，具体的かつ明確にお願い致します。
問題と思われる現象については，その現象を再現する情報が必要となりますので，詳しくお知らせください。
また，パソコンOSや弊社以外の市販ソフトウェアについてのお問い合わせなどは，それぞれのメーカにお問い合わせください。

A－3

は　じ　め　に

このたびは，三菱電機エンジニアリング株式会社（以下MEE）製EQLDR01形プログラムローダデータ変換用ユーティリティ機能ソフトウェアパッケージをお買い上げいただきまことにありがとうございました。

ご使用前に本書およびEQLDR01形プログラムローダオペレーティングマニュアルをよくお読みいただき，三菱電機株式会社製汎用シーケンサMELSECシリーズの機能・性能を十分ご理解のうえ，正しくご使用くださるようお願い致します。

目　　次

安全上のご注意 …… A- 1
改定履歴 …… A- 2
ソフトウェア登録のお薦め …… A- 3
はじめに …… A- 4
目　　次 …… A- 4
本マニュアルで使用する総称・略称 …… A- 6
登録商標について …… A- 6

1　概　　要　　1- 1 ～ 1- 1

1.1　特　　長 …… 1- 1
1.2　機能一覧 …… 1- 1

2　システム構成　　2- 1 ～ 2- 1

2.1　システム構成 …… 2- 1
2.2　動作環境 …… 2- 1

3　インストール／アンインストール　　3- 1 ～ 3- 5

3.1　インストール …… 3- 1
3.1.1　インストール手順 …… 3- 1
3.1.2　インストール操作 …… 3- 2
3.2　アンインストール …… 3- 4

4　操作手順　　4- 1 ～ 4-20

4.1　操作の流れ …… 4- 1
4.2　操作方法 …… 4- 2
4.2.1　ユーティリティの起動 …… 4- 2
4.2.2　メイン画面 …… 4- 3
4.2.3　データ変換元(GX Developer形式プロジェクト)選択画面 …… 4- 4
4.2.4　プログラムローダ形式データへの変換データ選択画面 …… 4- 6
4.2.5　パスワード設定画面 …… 4- 8
4.2.6　変換したプログラムローダ形式データの保存先指定画面 …… 4-10
4.2.7　データ変換元(プログラムローダ形式データ)選択画面 …… 4-12
4.2.8　GX Developer形式プロジェクトへの変換データ選択画面 …… 4-14
4.2.9　変換したGX Developer形式プロジェクトの保存先指定画面 …… 4-16
4.2.10 ユーティリティの終了 …… 4-18
4.3　ヘルプ機能 …… 4-19
4.3.1　ユーティリティからの表示 …… 4-19
4.3.2　Windowsからの表示 …… 4-19

付　　録　　付- 1 ～ 付-4

付.1　エラーメッセージ一覧表 ····· 付- 1

A - 5

本マニュアルで使用する総称・略称

本マニュアルで使用する総称・略称を以下に示します。
対象形名の明示が必要なときは，ユニット形名を記載しています。

総称／略称	内容／対象ユニット
プログラムローダ	MELSEC－Qシリーズベーシックモデル QCPU用EQLDR01形プログラムローダの略称。
CFカード	コンパクトフラッシュカードの略称。
GX Developer	製品形名SWnD5C-GPPW，SWnD5C-GPPW-A，SWnD5C-GPPW-V，SWnD5C-GPPW-VAの総称製品名。（n＝バージョン0～8全てを意味する）
ベーシックモデルQCPU	Q00JCPU,Q00CPU,Q01CPUの総称。
ハイパフォーマンスモデルQCPU	Q02(H)CPU,Q06HCPU,Q12HCPU,Q25HCPUの総称。
プロセスCPU	Q12PHCPU,Q25PHCPUの総称。
QCPU(Aモード)	Q02(H)-A,Q06H-Aの総称。
QCPU(Qモード)	Q00J,Q00,Q01,Q02(H),Q06H,Q12H,Q12PH,Q25H,Q25PHCPUの総称。

登録商標について

Microsoft，Windowsは，米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Acrobatは、Adobe Systems Incorporated の商標または登録商標です。
その他，本文中における会社名，商品名は，各社の商標または登録商標です。

ご注意

■弊社が紹介するMicrosoft® Windows® Operating System対応の市販ソフトウェア製品について，各製品に対する保証は致しませんので，ご了承願います。
■本製品のソフトウェアの著作権は，三菱電機エンジニアリング株式会社にあります。
■本書の内容の一部または全部を当社に断りなく，いかなる形でも転載または複製することは，固くお断りします。
■本書の記述内容は，ソフトウェア，ハードウェアの改訂に追従するように努力しておりますが，やむなく同期できない場合も生じます。
■本製品のソフトウェアは，コンピュータ1台につき1ライセンスの購入が必要です。
■本製品（マニュアル含む）は，ソフトウェア使用契約のもとでのみ使用することができます。
■本製品（マニュアル含む）を運用した結果の影響については，いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
■本マニュアルに記載されている内容は，お断りなしに変更することがありますのでご了承ください。

A－6

1 概　要

本マニュアルは，EQLDR01形プログラムローダデータ変換用ユーティリティ機能ソフトウェアパッケージ（以下，ユーティリティと略す）のシステム構成，仕様，取扱い，各機能の操作方法について説明しています。

本ユーティリティは，GX Developerで作成したプロジェクトをプログラムローダでPC書込み可能なプログラムローダ形式データに変換したり，プログラムローダでPC読出ししたプログラムローダ形式データをGX Developerで読出すことができるようにGX Developer形式プロジェクトに変換するためのソフトウェアパッケージです。

1.1 特　長

(1) CFカード経由によるデータの受け渡し

プログラムローダは，CFカードにプログラム，パラメータ等のデータを保存する場合には，必ずシーケンサCPUと接続しデータを読出す必要がありました。本ユーティリティを使用することで，シーケンサCPUが無くてもパソコン上で以下のことが行えるようになります。

- GX Developer形式プロジェクトを，プログラムローダ形式データに変換してCFカードに保存することが出来ます。
- CFカードのプログラムローダ形式データを，GX Developer形式プロジェクトに変換してパソコンに保存することが出来ます。

(2) パスワードの設定されたデータに対応

シーケンサCPU中のデータに書き込み禁止のパスワードが設定されている場合でも，パスワードを設定したプロジェクトを変換することにより書き込みが可能となります。（PC読出しはできません）

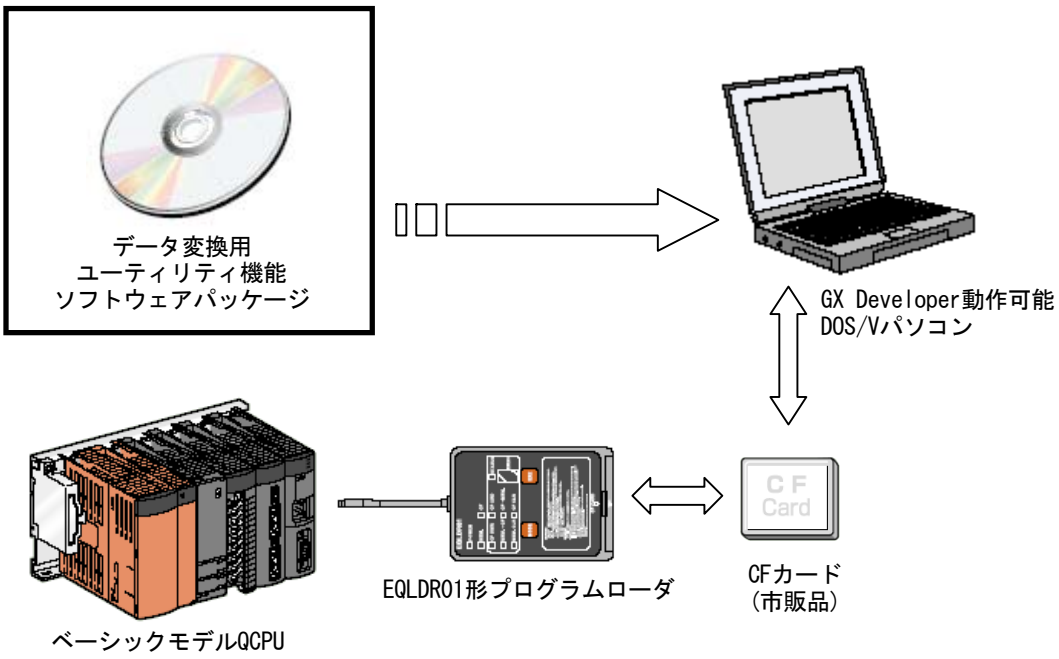
1.2 機能一覧

ユーティリティの機能一覧を示します。

No.	機能名	処理概要
1	GX Developer形式プロジェクト→プログラムローダ形式データへの変換	GX Developer形式のプロジェクトを，プログラムローダ形式データに変換して保存します。
2	プログラムローダ形式データ→GX Developer形式プロジェクトへの変換	プログラムローダ形式データを，GX Developer形式のプロジェクトに変換して保存します。

2　システム構成

2.1　システム構成



2.2　動作環境

ユーティリティの動作環境を以下に示します。

DOS/Vパソコン	Windows2000（日本語版）が動作するもの WindowsXP（日本語版）が動作するもの
OS	Windows2000 Professional（日本語版） WindowsXP Professional/Home Edition（日本語版）
CPU	Pentium　600MHz以上 （マルチプロセッサ対応不可）
ディスプレイ	解像度1024×768ドット以上
メモリ	64MB以上（WindowsXP時は128MB以上）
HD空き容量	インストール時：200MB以上（推奨） 実行時：仮想メモリ空き100MB以上

2 － 1

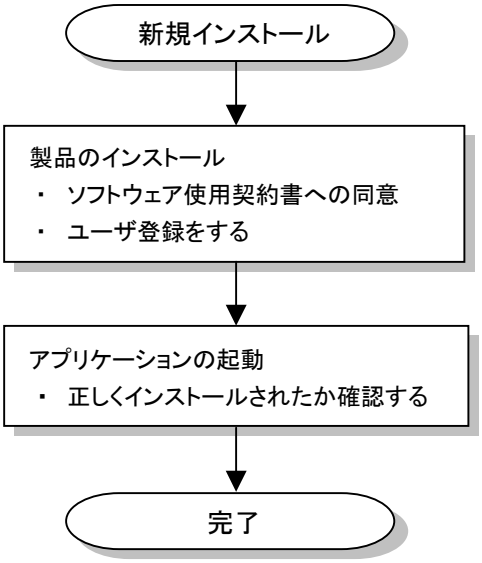
３　インストール／アンインストール

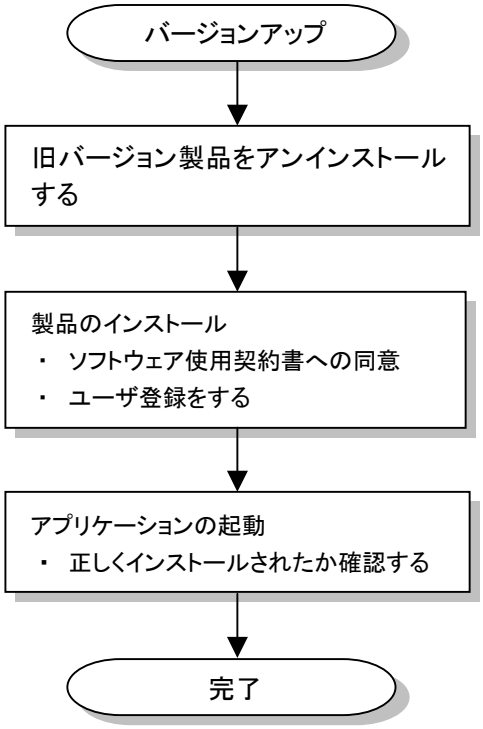
ここでは,ユーティリティのインストール／アンインストールの方法について説明します。

3.1　インストール

3.1.1　インストール手順

インストールは、下記の手順で行います。





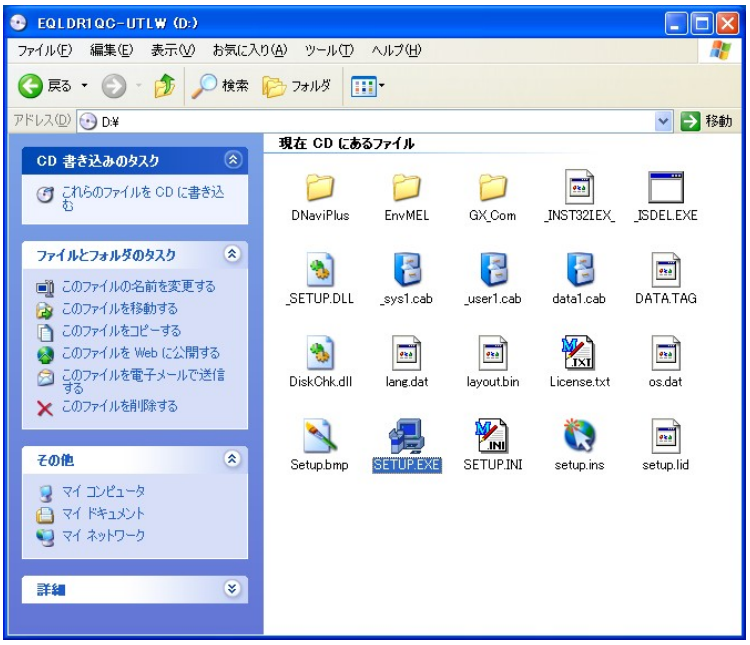
ポイント
インストールの際に、各種DLLの上書き確認メッセージが表示された場合は、「はい」を選択してDLLの上書きを行ってください。 DLLを上書きしない場合、本製品が正常に実行できない場合があります。

3 - 1

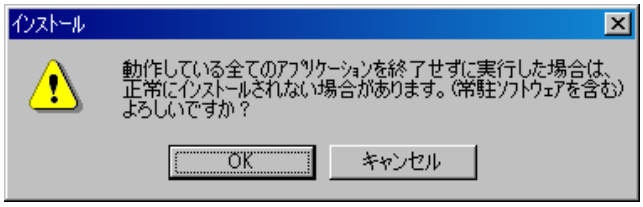
3.1.2　インストール操作

インストールを行う前に、次のことを確認してください。

ポイント
・ インストールを行う前に、Windows®で動作している他のアプリケーションをすべて終了させてください。 ・ Windows® XP Professional, Windows® XP Home Edition, Windows® 2000 Professional使用時は、Administrator(コンピュータ管理者用)の属性を持つユーザとしてログオンしてください。



①Windows®のエクスプローラを起動してディスクが挿入されているドライブをクリックします。
“SETUP.EXE”を起動します。



②インストールを実行する前に、動作している他のアプリケーションを終了し、
OK ボタンをクリックします。
インストールを中断する場合は、
キャンセル ボタンをクリックします。

3 - 2

③インストール初期画面
インストールを実行する場合は、
次へ(N) > ボタンをクリックします。
インストールを中断する場合は、
キャンセル ボタンをクリックします。

④インストール先フォルダを指定します。
インストール先フォルダを表示しますのでよろしければ，次へ(N) > をクリックします。
変更する場合は，参照(R)… をクリックし変更先のドライブ，フォルダを指定します。

⑤これで，インストールが完了しました。
OK をクリックしてください。

備　　考

本製品をインストールすると、［スタート］→［すべてのプログラム］→［MEE］→［EQLDR01用ﾃﾞｰﾀ変換ﾕｰﾃｨﾘﾃｨ］にアイコンが登録されます。

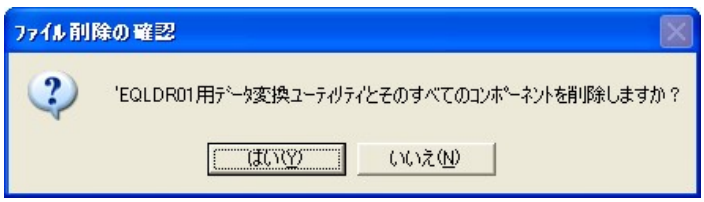
3 - 3

3.2　アンインストール

ハードディスクから本製品を削除する操作について説明します。

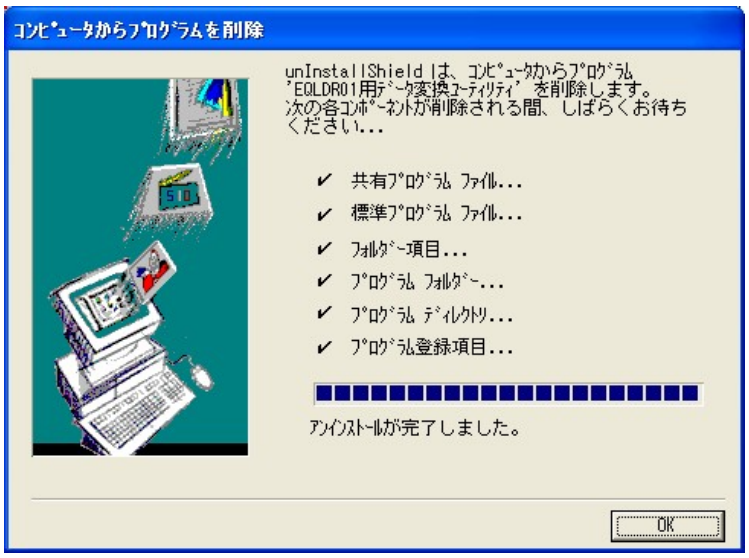
①コントロールパネルの中から“プログラムの追加と削除”を起動します。
コントロールパネルの表示は[スタート]→[コントロールパネル]を選択します。

②削除･変更するソフトウェアパッケージを選択します。
“EQLDR01用ﾃﾞｰﾀ変換ﾕｰﾃｨﾘﾃｨ”を選択します。



③ソフトウェアパッケージの削除を確認します。
アンインストールを行う場合は、[はい(Y)]をクリックします。実行しない場合は、[いいえ(N)]をクリックし、前の画面に戻ります。

3 - 4



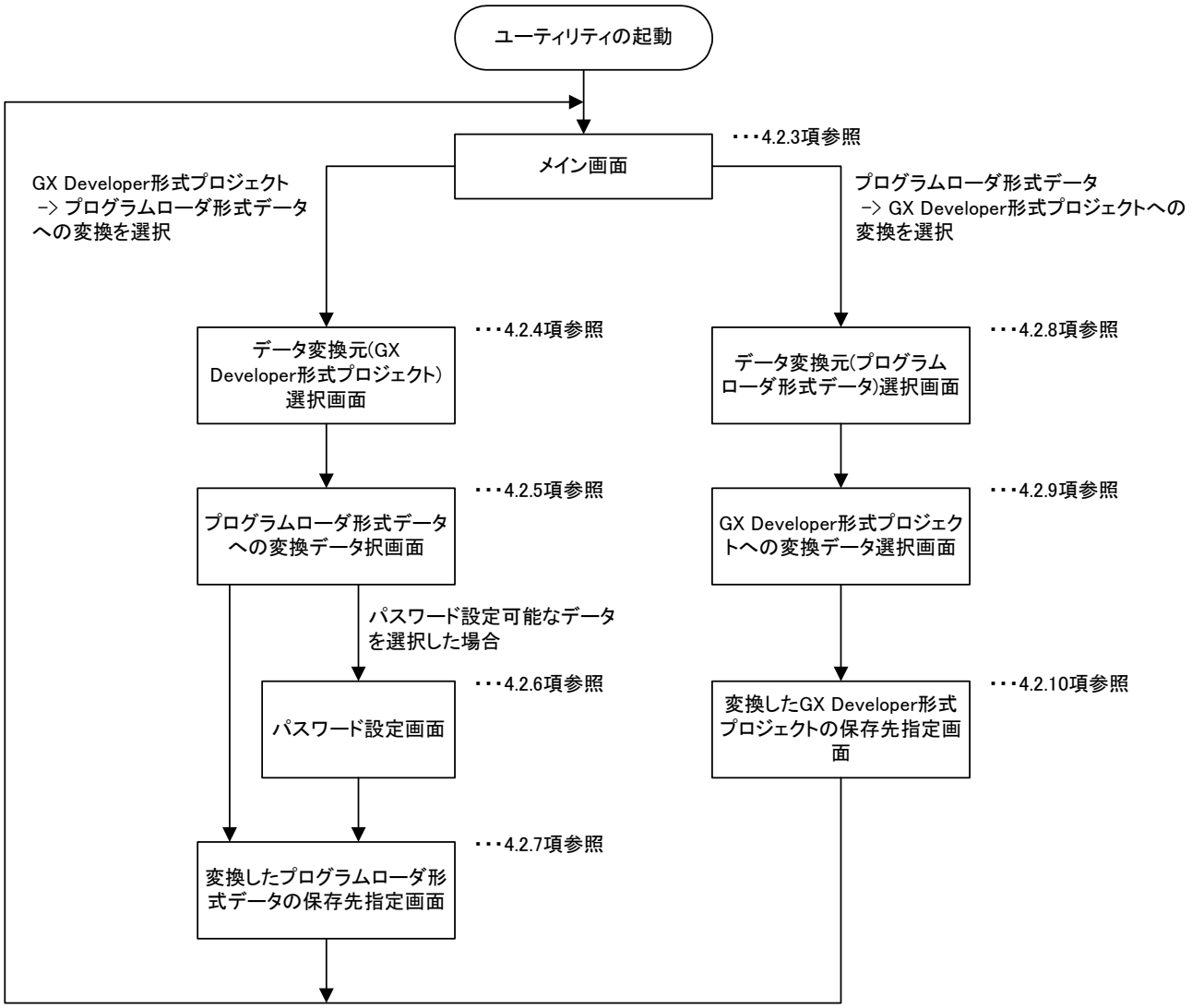
④これでプログラムの削除が完了しました。
OK ボタンをクリックしてください。

3 － 5

4　操作手順

ここでは、ユーティリティの操作の流れを説明します。

4.1　操作の流れ



4 - 1

4.2　操作方法

ここでは、ユーティリティの操作方法について説明します。

4.2.1　ユーティリティの起動

[スタート]メニュー → [すべてのﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ(P)] → [MEE] → [EQLDR01用ﾃﾞｰﾀ変換ﾕｰﾃｨﾘﾃｨ] → [EQLDR01用ﾃﾞｰﾀ変換ﾕｰﾃｨﾘﾃｨ] の順にクリックして、ユーティリティを起動します。

4 - 2

4.2.2　メイン画面

GX Developer形式プロジェクトからプログラムローダ形式データに変換するか、プログラムローダ形式データからGX Developer形式プロジェクトに変換するかを選択します。

【操作手順】

アプリケーションを起動すると表示されます。

【設定画面】

【項目説明】

① **GX Developer形式プロジェクト -> プログラムローダ形式データへの変換**

GX Developer形式プロジェクトからプログラムローダ形式のデータに変換する場合にクリックします。

② **プログラムローダ形式データ -> GX Developer形式プロジェクトへの変換**

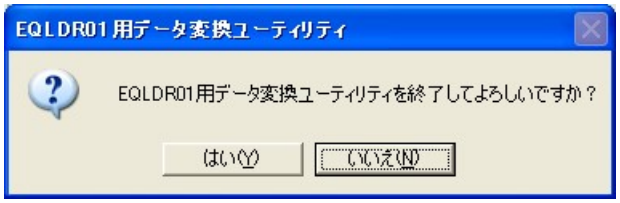
プログラムローダ形式のデータからGX Developer形式プロジェクトに変換する場合にクリックします。

③ **ヘルプ(H)ボタン**

本オペレーティングマニュアルを表示します。
詳細は、「4.3　ヘルプ機能」を参照ください。

④ **終了ボタン**

ユーティリティを終了する場合に、クリックします。以下のメッセージを表示し、**はい(Y)** をクリックすると、ユーティリティを終了します。



4 - 3

4.2.3　データ変換元(GX Developer形式プロジェクト)選択画面

GX Developer形式のプロジェクトから、プログラムローダ形式のデータへ変換する場合に、変換元であるGX Developer形式のプロジェクトを選択します。

【操作手順】

メイン画面で、

GX Developer形式プロジェクト -> プログラムローダ形式データへの変換

ボタンをクリックすると、表示されます。

【設定画面】

【項目説明】

① **ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄのﾄﾞﾗｲﾌﾞ**

GX Developer形式プロジェクトが保存されているドライブを選択します。

② **(フォルダ移動)ボタン**

１つ上のフォルダを表示します。

③ **(表示切替)ボタン**

④プロジェクト一覧表示の簡易／詳細を切替えます。

(詳細表示の例)

4 - 4

④ **プロジェクト一覧**

現在選択されているフォルダ中のプロジェクト一覧を表示します。
表示切替ボタンで詳細表示のときは、CPUタイプ、作成日時、見出文が表示されます。
詳細表示でCPUタイプが表示されないときは、データが壊れている可能性があります。

⑤ **ﾄﾞﾗｲﾌﾞ/ﾊﾟｽ**

選択するプロジェクトのドライブ／パス名を指定します。

⑥ **ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ名**

選択するプロジェクトのプロジェクト名を指定します。

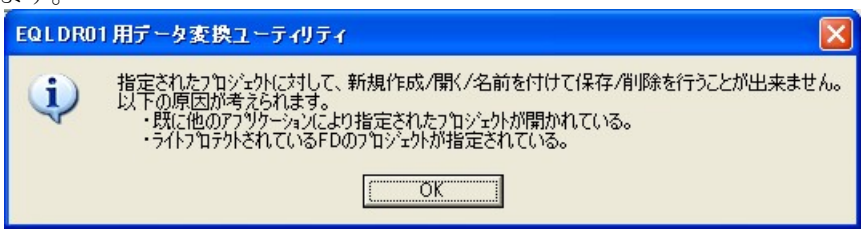
⑦ **次へ(N) > ボタン**

プロジェクトからプログラムローダ形式データへの変換データ選択画面に進みます。

ポイント

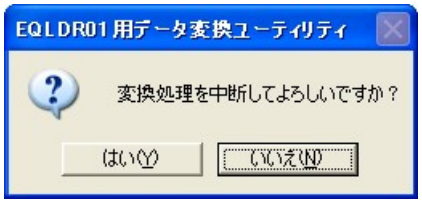
- 次へ(N) > ボタンは、変換元プロジェクトが選択されていないとクリックできません。
- QUTE以外のプロジェクトが選択された場合は、エラーを表示します。

- GX Developerで開かれているプロジェクトを選択した場合は、エラーを表示します。



⑧ **キャンセル ボタン**

変換処理を中断する場合に、クリックします。以下のメッセージを表示し、
はい(Y) をクリックすると、メイン画面へ戻ります。



4 - 5

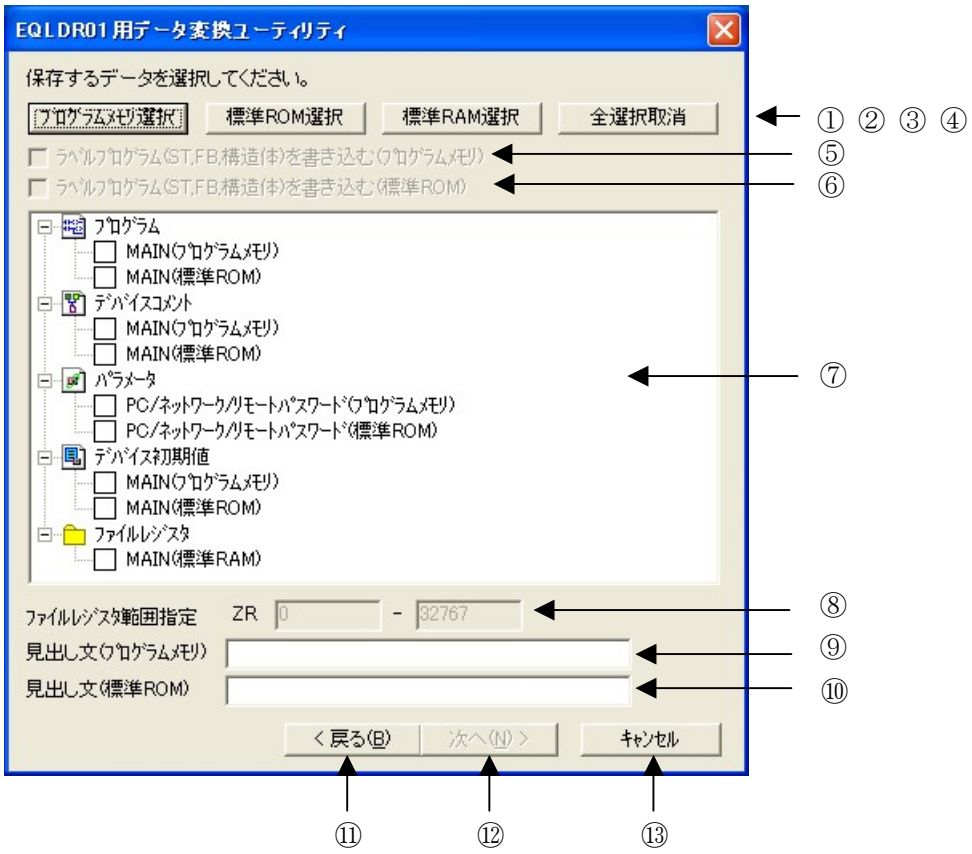
4.2.4　プログラムローダ形式データへの変換データ選択画面

GX Developer形式のプロジェクトから、プログラムローダ形式のデータへ変換する場合に、GX Developer形式のプロジェクトのどのデータを変換するかを選択します。

【操作手順】

データ変換元(GX Developer形式プロジェクト)選択画面で、GX Developer形式プロジェクトを選択し、 次へ(N) > ボタンをクリックすると表示されます。

【設定画面】



【項目説明】

① **ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾒﾓﾘ選択 ボタン**

プログラムメモリを対象とする全てのデータを選択する場合にクリックします。

② **標準ROM選択 ボタン**

標準ROMを対象とする全てのデータを選択する場合にクリックします。

③ **標準RAM選択 ボタン**

標準RAMを対象とする全てのデータを選択する場合にクリックします。

④ **全選択取消 ボタン**

全てのデータ選択を解除する場合にクリックします。

⑤ **「ﾗﾍﾞﾙﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ（ST,FB,構造体）を書き込む(ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾒﾓﾘ)」チェックボックス**
ラベルプログラムをシーケンサCPUのプログラムメモリに書き込む場合に□をクリックし、☑印をつけます。
プログラム（プログラムメモリ）が選択されていないときは無効です。
ラベル情報のないプロジェクトの場合は常に無効です。

⑥ **「ﾗﾍﾞﾙﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ（ST,FB,構造体）を書き込む(標準ROM)」チェックボックス**
ラベルプログラムをシーケンサCPUのプログラムメモリに書き込む場合に□をクリックし、☑印をつけます。
プログラム（標準ROM）が選択されていないときは無効です。
ラベル情報のないプロジェクトの場合は常に無効です。

⑦ **データ一覧**
変換可能なデータ一覧を表示します。()内の対象メモリ名は変換先を示します。
データの左端のチェックボックスまたはデータのチェックボックスに☑印をつけると、プログラムローダ形式データへの変換対象となります。

⑧ **ファイルレジスタ範囲**
ファイルレジスタの範囲を設定します。ファイルレジスタが選択されていないときは無効です。

ポイント
・入力可能範囲は0～65535です。 ・先頭Noより最終Noの方が小さい場合や、入力可能範囲外の値が設定された場合、先頭Noまたは最終Noが入力されていない場合はエラーとなります。

⑨ **見出し文(ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾒﾓﾘ)**
プログラムメモリの見出し文を設定する場合に入力します。半角で32文字、全角で16文字まで入力できます。

⑩ **見出し文(標準ROM)**
標準ROMの見出し文を設定する場合に入力します。半角で32文字、全角で16文字まで入力できます。

⑪ **[< 戻る(B)] ボタン**
１つ前の「データ変換元(GX Developer形式プロジェクト)選択画面」へ戻る場合にクリックします。

⑫ **[次へ(N) >] ボタン**
変換するデータを選択後、変換処理を継続する場合にクリックします。
プログラム、デバイスコメント、デバイス初期値のいずれかが選択されている場合には、パスワード設定画面に進みます。
プログラム、デバイスコメント、デバイス初期値のいずれも選択されていない場合には、変換後保存先指定画面に進みます。

⑬ **[キャンセル] ボタン**
変換処理を中断する場合に、クリックします。メッセージを表示し、
[はい(Y)] をクリックすると、メイン画面へ戻ります。

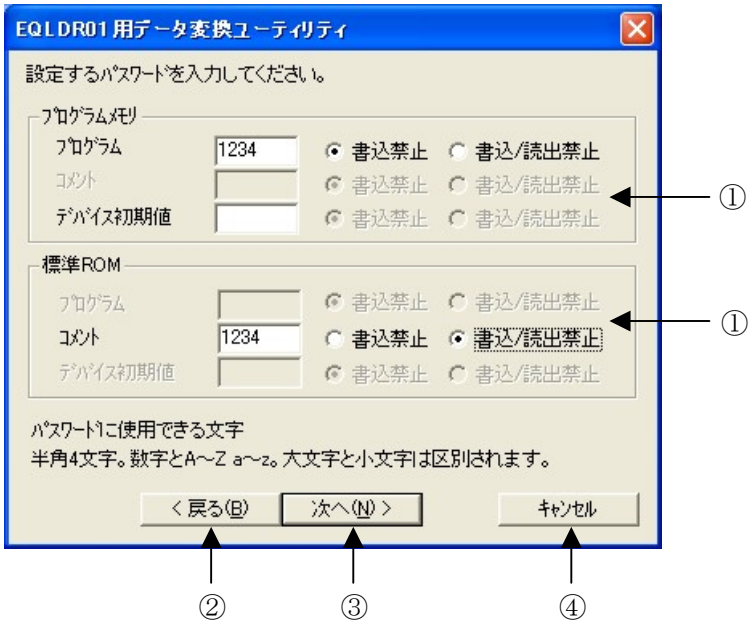
4.2.5　パスワード設定画面

プログラムローダ形式データへの変換の際に、パスワード設定可能なデータを選択した場合にパスワードを設定します。
プログラムローダにてPC書込みするシーケンサCPUに、既にパスワードが設定されている場合には、同一のパスワードを設定してください。

【操作手順】

プログラムローダ形式データへの変換データ選択画面で、プログラム、デバイスコメント、デバイス初期値のいずれかを選択して、次へ(N) > ボタンをクリックすると表示されます。

【設定画面】



【項目説明】

① ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾒﾓﾘ、標準ROM

対象メモリのプログラム、コメント、デバイス初期値のパスワードとパスワード登録条件(書込禁止、書込/読出禁止)を設定します。
パスワードに使用できる文字は、数字と英大文字(A～Z)、英小文字(a～z)の半角4文字までです。
プログラムローダ形式データへの変換データ選択画面で選択したデータのみパスワード設定が有効となります。
パスワードを省略すると、パスワードなしとなります。

ポイント

・パスワード設定と、プログラムローダでのPC読出/書込時の動作の関係を以下に示します。

【プログラムローダでのPC読出時】

（○：読出可能、×：読出不可能）

シーケンサ側データのパスワード登録状態		
パスワードなし	書込禁止	書込/読出禁止
○	○	×

【プログラムローダでのPC書込時】

（○：書込可能、△：パスワードが一致する場合のみ書込可能）

シーケンサ側データのパスワード登録状態		
パスワードなし	書込禁止	書込/読出禁止
○	△	△

② **< 戻る(B)** ボタン

１つ前の画面「プログラムローダ形式データへの変換データ選択画面」に戻る場合にクリックします。

③ **次へ(N) >** ボタン

パスワード設定を完了し、変換処理を継続する場合にクリックします。
プログラムローダ形式データへの変換後保存先指定画面に進みます。
パスワードを省略すると、パスワードなしとなります。

④ **キャンセル** ボタン

変換処理を中断する場合に、クリックします。メッセージを表示し、
はい(Y) をクリックすると、メイン画面へ戻ります。

4 － 9

4.2.6　変換したプログラムローダ形式データの保存先指定画面

GX Developer形式のプロジェクトからプログラムローダ形式データへ変換したデータの保存先を指定します。

【操作手順】

プログラムローダ形式データへの変換データ選択画面で、変換するデータを選択して、[次へ(N) >] ボタンをクリックすると表示されます。
または、
パスワード設定画面で、[次へ(N) >] ボタンをクリックすると表示されます。

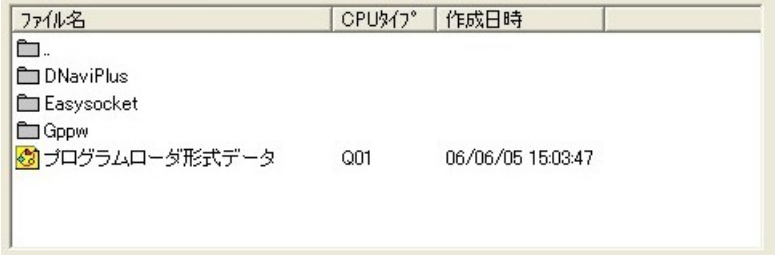
【設定画面】

【項目説明】

① **ﾄﾞﾗｲﾌﾞ**
プログラムローダ形式データを保存するドライブを選択します。
例）プログラムローダに使用するCFカードを装着したドライブを選択します。

② **(フォルダ移動)ボタン**
１つ上のフォルダを表示します。

③ **(表示切替)ボタン**
プログラムローダ形式データ一覧表示の簡易／詳細を切替えます。



(詳細表示の例)

4 - 10

④ **プログラムローダ形式データ一覧**

現在選択されているフォルダ中のプログラムローダ形式データ一覧を表示します。

⑤ **ﾄﾞﾗｲﾌﾞ/ﾊﾟｽ**

選択するプロジェクトのドライブ／パス名を指定します。

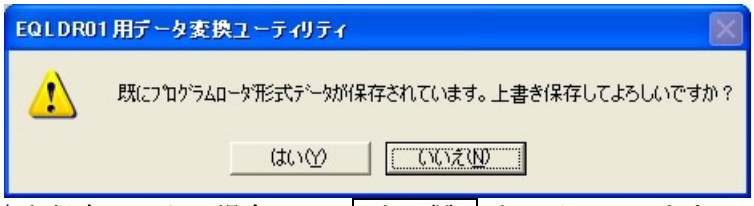
⑥ **[< 戻る(B)] ボタン**

１つ前の「プログラムローダ形式データへの変換データ選択画面」または、「パスワード設定画面」に戻る場合にクリックします。

⑦ **[次へ(N) >] ボタン**

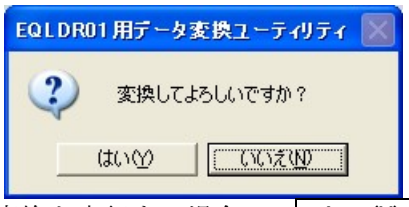
a) 指定したフォルダに変換したプログラムローダ形式データを保存する場合にクリックします。

b) 既にプログラムローダ形式データが保存されている場合は、以下のメッセージを表示します。



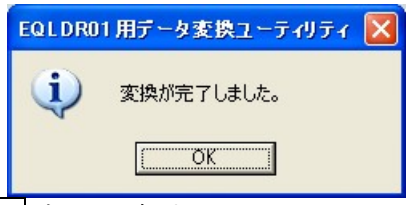
上書き保存してよい場合には、[はい(Y)] をクリックします。

c) 変換の確認メッセージを表示します。



変換を実行する場合は、[はい(Y)] をクリックします。

d) 変換が正常終了すると、以下のメッセージを表示します。



[OK] ボタンを押すと、メイン画面に戻ります。

ポイント
・ １つのフォルダに保存可能なプログラムローダ形式データは、1種類です。複数のGX Developer形式プロジェクトを変換し保存する場合は、保存するフォルダを分けてください。 ・ デバイスコメントの変換は、プロジェクトに設定されているコメント範囲設定が使用されます。

⑧ **[キャンセル] ボタン**

変換処理を中断する場合に、クリックします。メッセージを表示し、[はい(Y)] をクリックすると、メイン画面へ戻ります。

4 - 11

4.2.7　データ変換元(プログラムローダ形式データ)選択画面

プログラムローダ形式データから、GX Developer形式のプロジェクトへ変換する場合に、変換元であるプログラムローダ形式データが保存されているフォルダを選択します。

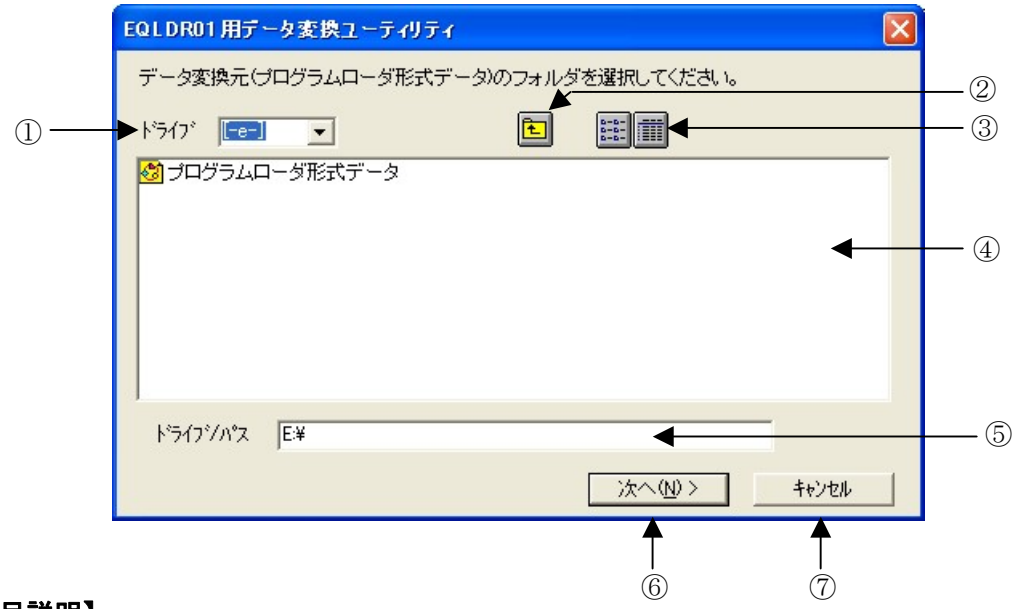
【操作手順】

メイン画面で、

プログラムローダ形式データ -> GX Developer形式プロジェクトへの変換

ボタンをクリックすると、表示されます。

【設定画面】



【項目説明】

① **ﾄﾞﾗｲﾌﾞ**

プログラムローダ形式データが保存されているドライブを選択します。

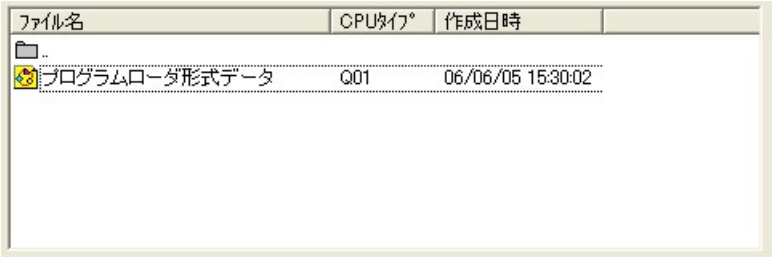
例) プログラムローダに使用するCFカードを装着したドライブを選択します。

② **(フォルダ移動)ボタン**

１つ上のフォルダを表示します。

③ **(表示切替)ボタン**

プログラムローダ形式データ一覧表示の簡易／詳細を切替えます。



(詳細表示の例)

4 - 12

④ **プログラムローダ形式データ一覧**
現在選択されているフォルダ中のプログラムローダ形式データ一覧を表示します。

ポイント
・１つのフォルダには最大１つのプログラムローダ形式データしか存在しません。 ・プログラムローダ形式データ名は、「プログラムローダ形式データ」固定です。

⑤ **ﾄﾞﾗｲﾌﾞ/ﾊﾟｽ**
選択するプログラムローダ形式データのドライブ／パス名を指定します。

⑥ **次へ(N) > ボタン**
GX Developer形式プロジェクトに変換したいプログラムローダ形式データが保存されているフォルダ選択後、変換を継続する場合にクリックします。
プロジェクトへの変換データ選択画面に進みます。

⑦ **キャンセル ボタン**
変換処理を中断する場合に、クリックします。メッセージを表示し、
はい(Y) をクリックすると、メイン画面へ戻ります。

4 - 13

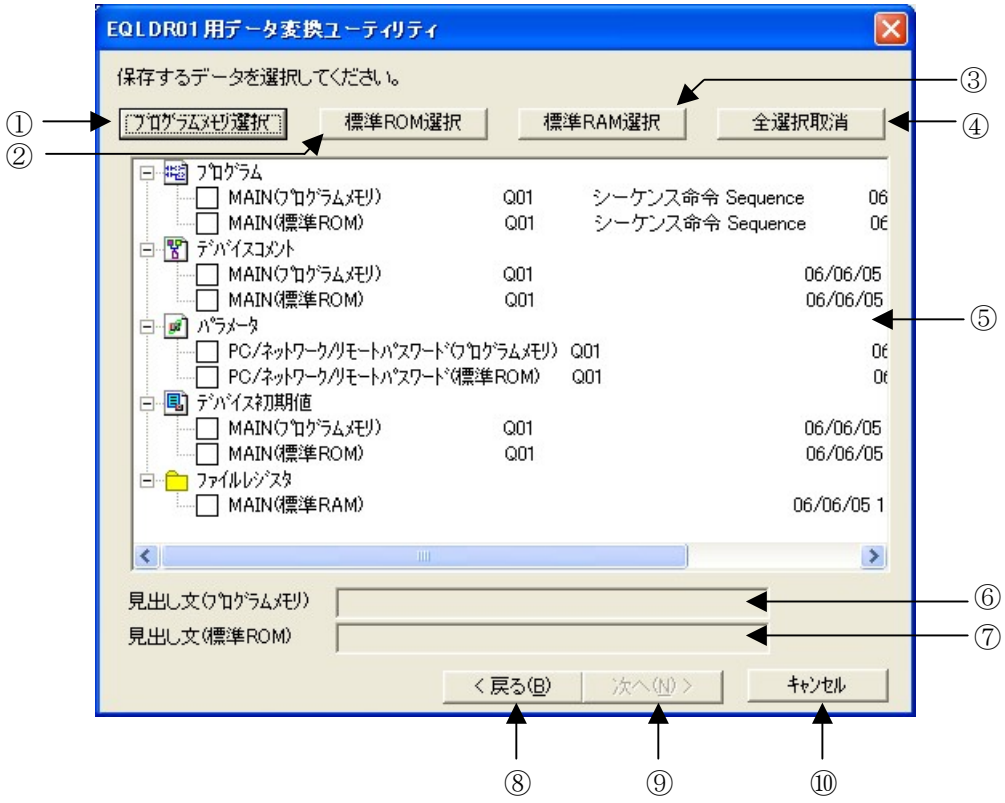
4.2.8　GX Developer形式プロジェクトへの変換データ選択画面

プログラムローダ形式データから、GX Developer形式のプロジェクトへ変換する場合に、GX Developer形式へ変換するデータを選択します。

【操作手順】

データ変換元(プログラムローダ形式データ)選択画面にて、変換したいプログラムローダ形式データが保存されているフォルダを選択後、次へ(N) > ボタンをクリックすると表示されます。

【設定画面】



【項目説明】

① **プログラムメモリ選択 ボタン**

プログラムメモリを対象とする全てのデータを選択する場合にクリックします。

② **標準ROM選択 ボタン**

標準ROMを対象とする全てのデータを選択する場合にクリックします。

③ **標準RAM選択 ボタン**

標準RAMを対象とする全てのデータを選択する場合にクリックします。

④ **全選択取消 ボタン**

全てのデータ選択を解除する場合にクリックします。

⑤ **データ一覧**
変換可能なデータ一覧を表示します。()内の対象メモリ名は変換元を示します。
データの左端のチェックボックスまたはデータのチェックボックスに☑印をつけると、GX Developer形式プロジェクトへの変換対象となります。
同名データは１つの対象メモリしか選択することはできません。

⑥ **見出し文(ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾒﾓﾘ)**
プログラムメモリの見出し文を表示します。編集はできません。

⑦ **見出し文(標準ROM)**
標準ROMの見出し文を表示します。編集はできません。

⑧ **< 戻る(B)　ボタン**
１つ前の「プログラムローダ形式データからプロジェクトへの変換元選択画面」に戻る場合にクリックします。

⑨ **次へ(N) >　ボタン**
変換するデータを選択後、変換処理を継続する場合にクリックします。
GX Developer形式プロジェクトへの変換後保存先指定画面に進みます。

⑩ **キャンセル　ボタン**
変換処理を中断する場合に、クリックします。メッセージを表示し、
はい(Y)　をクリックすると、メイン画面へ戻ります。

4 - 15

4.2.9　変換したGX Developer形式プロジェクトの保存先指定画面

プログラムローダ形式データから、GX Developer形式プロジェクトへ変換する場合の、プロジェクトの保存先を指定します。

【操作手順】

GX Developer形式プロジェクトへの変換データ選択画面で、データ選択後 次へ(N) > ボタンをクリックすると表示されます。

【設定画面】

【項目説明】

① **ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄのﾄﾞﾗｲﾌﾞ**

GX Developer形式プロジェクトを保存するドライブを選択します。

② **(フォルダ移動)ボタン**

１つ上のフォルダを表示します。

③ **(表示切替)ボタン**

④プロジェクト一覧表示の簡易／詳細を切替えます。

④ **プロジェクト一覧**

現在選択されているフォルダ中の既に保存されているプロジェクト一覧を表示します。

表示切替ボタンで詳細表示のときは、CPUタイプ、作成日時、見出し文が表示されます。

⑤ **ﾄﾞﾗｲﾌﾞ/ﾊﾟｽ**

保存するプロジェクトのドライブ／パス名を指定する。

4 - 16

⑥ **ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ名**

保存するプロジェクトのプロジェクト名を指定します。

⑦ **見出し文**

保存するプロジェクトの見出し文を設定します。

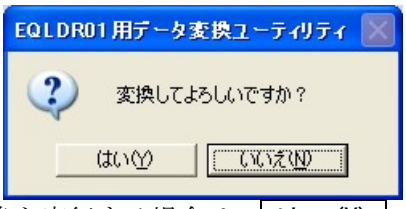
⑧ **[< 戻る(B)] ボタン**

１つ前の「GX Developer形式プロジェクトへの変換データ選択画面」に戻る場合にクリックします。

⑨ **[次へ(N) >] ボタン**

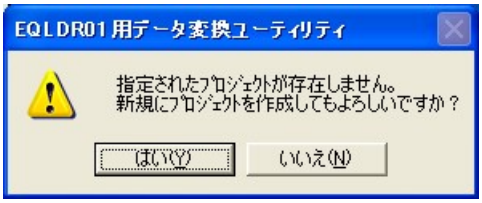
a) 指定したプロジェクト名で、変換したGX Developer形式プロジェクトを保存する場合にクリックします。

b) 変換の確認メッセージを表示します。



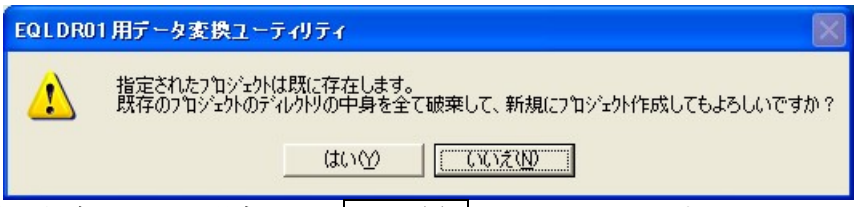
変換を実行する場合は、[はい(Y)] をクリックします。

c) 指定されたプロジェクトが存在しない場合には、以下のメッセージを表示します。



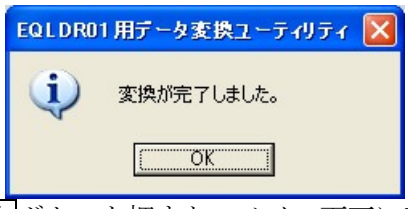
新規にプロジェクトを作成してもよい場合は、[はい(Y)] をクリックします。

d) 既にプロジェクトが保存されている場合は、以下のメッセージを表示します。



上書き保存してよい場合には、[はい(Y)] をクリックします。

e) 変換が正常終了すると、以下のメッセージを表示します。



[OK] ボタンを押すと、メイン画面に戻ります。

⑩ **[キャンセル] ボタン**

変換処理を中断する場合に、クリックします。メッセージを表示し、[はい(Y)] をクリックすると、メイン画面へ戻ります。

4 - 17

4.2.10　ユーティリティの終了

【操作手順】

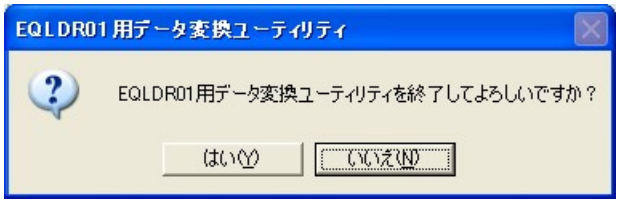
アプリケーションを起動すると、メイン画面が表示されます。
メイン画面で操作します。

【設定画面】

【項目説明】

① **終了ボタン**

ユーティリティを終了する場合に、クリックします。
以下のメッセージを表示し、はい(Y) をクリックすると、ユーティリティを終了します。



4 - 18

4.3　ヘルプ機能

本オペレーティングマニュアルを表示することができます。
本オペレーティングマニュアルを表示するためには、Acrobat Reader(5.0以上)が必要です。

4.3.1　ユーティリティからの表示

本オペレーティングマニュアルをユーティリティから表示する方法を説明します。

【操作手順】

アプリケーションを起動すると、メイン画面が表示されます。
メイン画面で操作します。

【設定画面】

【項目説明】

① **ヘルプ(H) ボタン**
オペレーティングマニュアルを表示します。

4.3.2　Windowsからの表示

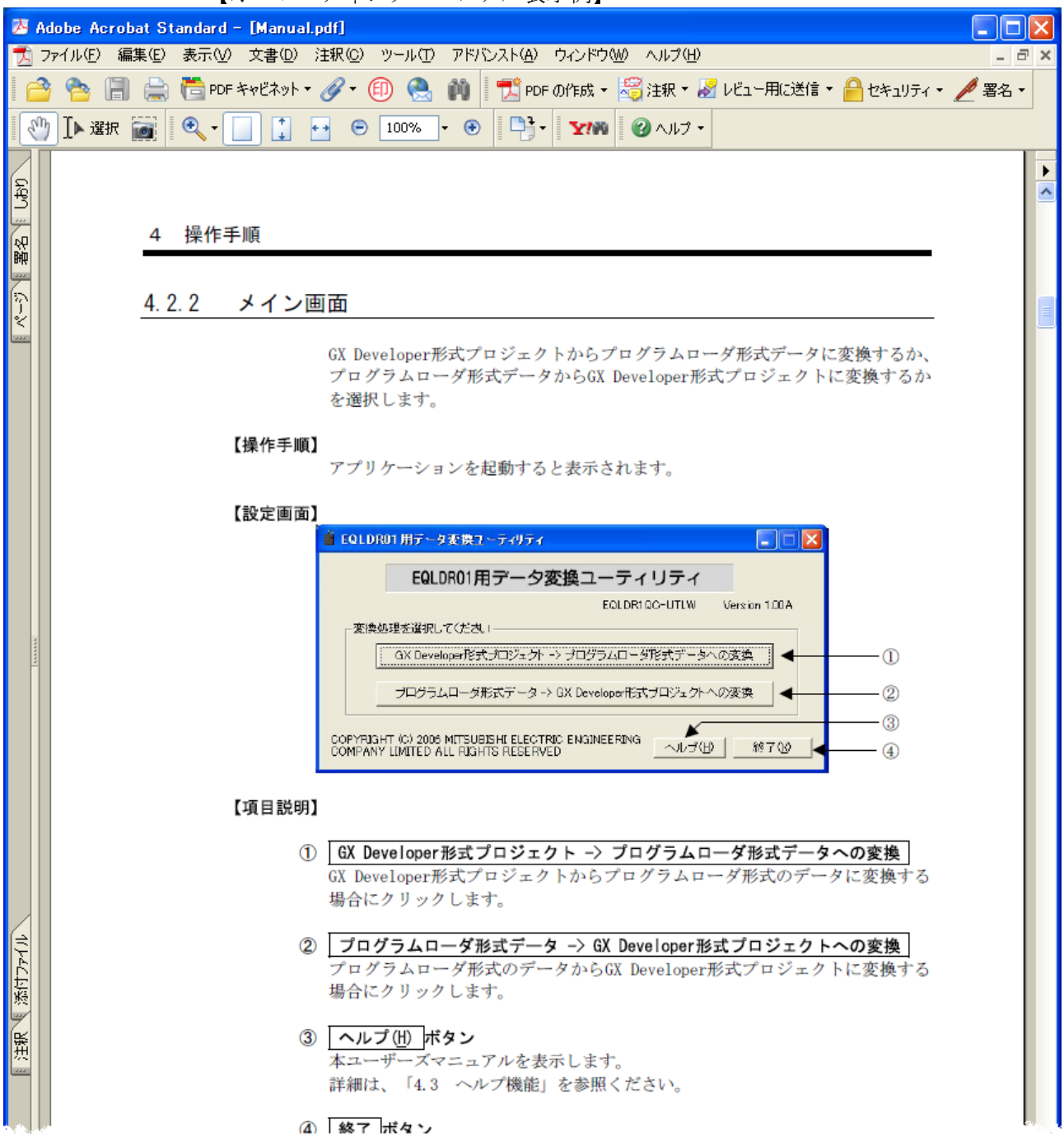
本オペレーティングマニュアルをWindows®から表示する方法を説明します。

【操作手順】

[スタート]メニュー → [すべてのﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ(P)] → [MEE] → [EQLDR01用ﾃﾞｰﾀ変換ﾕｰﾃｨﾘﾃｨ] → [EQLDR01用ﾃﾞｰﾀ変換ﾕｰﾃｨﾘﾃｨ ﾏﾆｭｱﾙ]の順にクリックして、オペレーティングマニュアルファイルを表示します。

4 - 19

【オペレーティングマニュアル表示例】



4　操作手順

4.2.2　メイン画面

GX Developer形式プロジェクトからプログラムローダ形式データに変換するか、プログラムローダ形式データからGX Developer形式プロジェクトに変換するかを選択します。

【操作手順】

アプリケーションを起動すると表示されます。

【設定画面】

【項目説明】

① **GX Developer形式プロジェクト -> プログラムローダ形式データへの変換**
GX Developer形式プロジェクトからプログラムローダ形式のデータに変換する場合にクリックします。

② **プログラムローダ形式データ -> GX Developer形式プロジェクトへの変換**
プログラムローダ形式のデータからGX Developer形式プロジェクトに変換する場合にクリックします。

③ **ヘルプ(H)** ボタン
本ユーザーズマニュアルを表示します。
詳細は、「4.3　ヘルプ機能」を参照ください。

④ **終了** ボタン

4 - 20

付　　録

付.1　エラーメッセージ一覧表

ユーティリティで発生するエラーメッセージについて説明します。

(1)GX Developer形式プロジェクトからプログラムローダ形式データ変換時のエラーメッセージ

表示メッセージ	エラー発生原因	処置
指定したプログラムに変換/コンパイルされていないものが存在します。プログラムを変換/コンパイルしてから実行してください。	未変換/コンパイルのプログラムがある。	GX Developerにて全プログラムを変換/コンパイルしてください。
ラベルプログラムのPCタイプが異なるため読み出すことができません。	GX Developer形式プロジェクトとラベルプログラムのPCタイプが異なる。	該当プロジェクトが、GX Developerで正常に読み出せるか確認してください。 読み出せない場合は、対象プロジェクトが壊れていますので、プロジェクトを作成しなおしてください。
指定のディレクトリには、プログラムローダと同じファイル名のディレクトリが存在するため保存できません。	保存するデータ名と同じ名前のディレクトリ名が既に存在する。	保存するデータ名を変更してください。
ラベルプログラムのファイル読出に失敗しました。処理を中断します。	ラベルプログラムのファイルが壊れている可能性がある。	該当プロジェクトが、GX Developerで正常に読み出せるか確認してください。読み出せない場合は、対象プロジェクトが壊れていますので、プロジェクトを作成しなおしてください。
変換できませんでした。 変換元のﾃﾞｰﾀを確認してください。	GX Developer形式プロジェクトが壊れている可能性がある。	該当プロジェクトが、GX Developerで正常に読み出し、QCPUに書込ができることを確認してください。
ｻﾎﾟｰﾄしていないCPUﾀｲﾌﾟのﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄです。 このﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを変換することはできません。	GX Developer形式プロジェクトからプログラムローダ形式データへ変換する際、データ変換元にQUTE以外のプロジェクトを選択した。	QUTEのプロジェクトを選択してください。
指定されたﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄに対して、新規作成/開く/名前を付けて保存/削除を行うことができません。以下の原因が考えられます。 ・ 既に他のｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝにより指定されたﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄが開かれている。 ・ ﾗｲﾄﾌﾟﾛﾃｸﾄされているFDのﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄが指定されている。	他のアプリケーションで開かれている GX Developer形式プロジェクトが選択された。または、書込み禁止状態のプロジェクトが選択された。	他のアプリケーションで開かれているGX Developer形式プロジェクトを閉じてください。または、プロジェクトを書込み許可状態にしてください。
ﾌｧｲﾙﾚｼﾞｽﾀ範囲指定が先頭Noより最終Noの方が小さな値になっています。	プログラムローダ形式データへの変換データ選択画面にて、ファイルレジスタ範囲指定が先頭Noより最終Noの方が小さい値が設定された。	先頭Noより最終Noの方が大きくなるように指定してください

（次ページへ続く）

付 - 1

（前ページの続き）

表示メッセージ	エラー発生原因	処置
ﾌｧｲﾙﾚｼﾞｽﾀ先頭ﾃﾞﾊﾞｲｽNoの値が不正です。	プログラムローダ形式データへの変換データ選択画面にて、ファイルレジスタ範囲指定の先頭Noが入力されていない。	先頭Noを入力してください。
ﾌｧｲﾙﾚｼﾞｽﾀ最終ﾃﾞﾊﾞｲｽNoの値が不正です。	プログラムローダ形式データへの変換データ選択画面にて、ファイルレジスタ範囲指定の最終Noが入力されていない。	最終Noを入力してください。
ﾌｧｲﾙﾚｼﾞｽﾀﾃﾞﾊﾞｲｽ点数が最大点数を越えます。	プログラムローダ形式データへの変換データ選択画面にて、ファイルレジスタ範囲指定が最大点数65535を超えている。	GX Developerにてファイルレジスタデバイス点数を65535以下となるようにしてください。
コメント（COMMENT）にはデータがありません。書き込みは行われませんでした。	デバイスコメントが選択されており、書き込むコメント範囲のデータが空きであった。	デバイスコメントのあるデータをコメント範囲設定で指定してください。
変換されたﾃﾞｰﾀが、容量ｵｰﾊﾞｰです。 処理を中断します。	対象CPUの最大メモリ容量あきらかに超えるサイズのデータを変換した場合。	GX Developerにて、プロジェクトデータが小さくなるように、コメントやプログラムを修正してください。
注意 このﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄはVer.6またはVer.7のﾗﾍﾞﾙﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑで作成したﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄです。 本ﾊﾞｰｼﾞｮﾝにて、このﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを保存した場合、旧ﾊﾞｰｼﾞｮﾝで開くと以下のようになります。 ・Ver.7で開く → ﾗﾍﾞﾙ+FBﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄとなります。 ・Ver.6で開く → ﾗﾍﾞﾙ無しﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄとなり、ﾗﾍﾞﾙは復元されません。	GX Developerのバージョン６または７で作成されたラベルプログラムを指定した。	プログラムローダではGX Developerのバージョン８以降で作成したラベルプログラムのプロジェクトを指定してください。
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾌｧｲﾙの読み出しに失敗しました。ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを開くことができません。 以下の原因が考えられます。 ・ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾌｧｲﾙ内のﾃﾞｰﾀが完全に壊れている。 ・本製品より新しいﾊﾞｰｼﾞｮﾝで作成されたﾃﾞｰﾀである。 ・ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾌｧｲﾙが無い。	GX Developerプロジェクトからプログラムローダ変換時に、GX Developerのプロジェクト読出ができなかった。	該当プロジェクトが、GX Developerで正常に読み出せるか確認してください。読み出せない場合は、対象プロジェクトが壊れていますので、プロジェクトを作成しなおしてください。
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾌｧｲﾙからのﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾃﾞｰﾀの取得に失敗しました。 ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾌｧｲﾙ内のﾃﾞｰﾀが完全に壊れています。 ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを開くことが出来ません。	GX Developerプロジェクトからプログラムローダ変換時に、GX Developerのプロジェクトの読出が正常にできなかった。	該当プロジェクトが、GX Developerで正常に読み出せるか確認してください。読み出せない場合は、対象プロジェクトが壊れていますので、プロジェクトを作成しなおしてください。
指定されたﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄは存在しません。 存在するﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾊﾟｽ／ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ名を指定してください。	プロジェクト名をキーボードから入力した際に、存在しないプロジェクト名を指定した。	存在するﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾊﾟｽ／ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ名を指定してから実行してください。
ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞの入力が正しくありません。 正しいﾊﾟｽﾜｰﾄﾞを入力してください。	パスワードが4文字入力されていない場合	パスワードは4文字の数字、英大文字、英小文字で指定してください。

付 - 2

(2) プログラムローダ形式データからGX Developer形式プロジェクト変換時のエラーメッセージ

表示メッセージ	エラー発生原因	処置
プログラムローダのデータが壊れています。	プログラムローダ形式データが壊れている可能性がある。	プログラムローダで再度シーケンサからデータを読み出し、再度変換を行ってください。
ラベルプログラムのファイル書込に失敗しました。処理を中断します。	ラベルプログラムのファイルが壊れている可能性がある。	パソコンを再起動して再実行してみるか、インストールしなおしてから再実行してください。
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの新規作成に失敗しました。	空きメモリ容量が足りない場合などの原因により、GX Developerのプロジェクトが作成できなかった。	起動中の他のプログラムを終了させて再度実行してください。 または、インストールしなおしてから再実行してください。
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの保存に失敗しました。	HDDの空き容量が足りないなど、GX Developerのプロジェクト保存が正常にできなかった。	HDDの空き容量を増やすか、空き容量の大きいドライブを選択し、再実行してください。
指定されたﾄﾞﾗｲﾌﾞにﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを保存することが出来ません。 以下の原因が考えられます。 ・保存中にｴﾗｰが発生した。 ・保存に必要なﾒﾓﾘが不足している。 ・指定されたﾄﾞﾗｲﾌﾞの媒体が壊れている。	保存先のドライブが壊れている、空きメモリ容量が足りない可能性がある。	保存先ドライブのチェックを行い、動作中の他のプログラムを終了させて再度実行する。
このﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ名,ﾃﾞｰﾀ名は予約ﾃﾞﾊﾞｲｽ名です。 別の名前を選んでください。	プロジェクト名に予約デバイス名（COM1 ～ COM9,LPT1 ～ LPT9,AUX,CON,PRN,NUL,CLOCK$）を指定した。	予約デバイス名以外の名前を指定してください。
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾊﾟｽに使用禁止文字が使用されています。 /,:,,,;,*,?,"",<,>,|の文字はﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾊﾟｽとして使用しないでください。	プロジェクトのパス名に、/,:,,,;,*,?,"",<,>,| の文字が使用されている。	使用禁止文字以外でプロジェクトのパス名を指定してください。
ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘの指定にｽﾍﾟｰｽのみのﾃﾞｨﾚｸﾄﾘ名が指定されています。 ｽﾍﾟｰｽのみのﾃﾞｨﾚｸﾄﾘを作成することはできません。	スペースのみのディレクトリが指定された	スペース以外のディレクトリ名を指定してください。
ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘの指定に¥が連続で指定されています。 ¥は連続では指定しないでください。	ディレクトリの指定に¥が連続で指定されている場合	¥は連続で使用せずにディレクトリを指定してください。
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ名の最後にﾋﾟﾘｵﾄﾞは使用できません。	プロジェクト名の最後にピリオドが入力されている場合	プロジェクト名の末尾はピリオド以外の文字を使用してください。
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ名に使用禁止文字が使用されています。 ¥,/,:,,,;,*,?,"",<,>,|の文字はﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ名として使用しないでください。 ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ名の全てがｽﾍﾟｰｽの場合も異常となります。	プロジェクト名に、/,:,,,;,*,?,"",<,>,| の文字が使用されている場合	使用禁止文字以外でプロジェクト名を指定してください。
使用出来る文字数を超えています。 150文字以内に設定してください。	変換先GX Developerプロジェクト名＋パスの文字数が150文字を越えた	変換先GX Developerプロジェクト名＋パス名は、150文字以内で指定してください。

付 - 3

(3) その他のエラーメッセージ

表示メッセージ	エラー発生原因	処置
OLE の初期化に失敗しました。OLE ﾗｲﾌﾞﾗﾘが正しいﾊﾞｰｼﾞｮﾝのものか確認してください。	不正なバージョンの OLE システム DLL がインストールされている可能性がある。	ユーティリティをインストールしなおしてから再実行してください。
選択できるﾃﾞｰﾀ数を超えます。 ・・・・　で選択できるﾃﾞｰﾀの最大数は n 個です。	複数のデバイスメモリまたは複数のファイルレジスタがある場合、選択可能個数を超えて選択した。	最大個数範囲内で指定してください。
指定されたﾄﾞﾗｲﾌﾞへのｱｸｾｽができません。以下の原因が考えられます。 ・ﾄﾞﾗｲﾌﾞの準備が出来ていない。 ・ﾄﾞﾗｲﾌﾞの空き容量が不足している。	プログラムローダで変換時に、使用しているHDDの空き容量が不足している。	不要なファイルを削除し、HDDの空き容量に余裕を持たせて再実行してください。
CPU定義ﾌｧｲﾙの読出しに失敗しました。 ﾚｼﾞｽﾄﾘ情報が壊れているか、CPU定義ﾌｧｲﾙが存在しない可能性があります。 再度ｲﾝｽﾄｰﾙを行ってください。	CPU の定義ファイル (CPUTYPE.DAT) が壊れている。	インストールしなおしてから再実行してください。
ﾒﾓﾘが不足しています。 他に動作しているｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝがあれば終了してください。	空きメモリ容量が足りない可能性がある。	起動中の他のプログラムを終了させて再度実行してください。
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの生成に失敗しました。	空きメモリ容量が足りない可能性がある。	起動中の他のプログラムを終了させて再度実行してください。
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの初期化に失敗しました。 ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを開くことが出来ません。	空きメモリ容量が足りない可能性がある。	起動中の他のプログラムを終了させて再実行してください。
ﾒﾓﾘが不足しているため、EQLDR01用ﾃﾞｰﾀ変換ﾕｰﾃｨﾘﾃｨ を起動することが出来ません。 他のｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝを終了してから再度 EQLDR01用ﾃﾞｰﾀ変換ﾕｰﾃｨﾘﾃｨ を起動してください。	空きメモリ容量が足りない可能性がある。	起動中の他のプログラムを終了させて再実行してください。
指定されたﾄﾞﾗｲﾌﾞは使用出来ません。 ﾃﾞｨｽｸが挿入されているかを確認してください。	指定したドライブにディスクが入っていない。	ドライブにディスクを挿入してから再実行してください。
選択できません。 ﾄﾞﾗｲﾌﾞ/ﾊﾟｽは、150文字以内で指定してください。	ドライブ／パスの文字が150文字を越えた。	ドライブ／パスは150文字以内で指定してください。
Acrobat Readerを起動することができません。 Acrobat Readerがｲﾝｽﾄｰﾙされていない可能性があります。 Acrobat Readerをｲﾝｽﾄｰﾙしてください。	Acrobat Readerがインストールされていないか、Manual.pdfファイルがみつからない。	Acrobat Readerがインストールされていない場合は、Acrobat Readerをインストールしてください。 Manual.pdfファイルがない場合は、ユーティリティを再インストールしてください。

付 - 4

メ　モ

製　品　保　証　内　容

ご使用に際しましては、以下の製品保証内容をご確認いただきますようよろしくお願いいたします。

無償保証期間と無償保証範囲

無償保証期間中に製品に当社側の責任による故障や瑕疵（以下併せて「故障」と呼びます）が発生した場合、当社はお買い上げいただいた販売店を通してご返却いただき、無償で製品を修理させていただきます。

■無償保証期間

製品の無償保証期間は、お客様にてご購入後またはご指定場所に納入後１年間とさせていただきます。
ただし、当社製品出荷後の流通期間を最長６ヶ月として、製造から18ヶ月を無償保証期間の上限とさせていただきます。
また修理品の無償保証期間は、修理前の保証期間を超えて長くなることはありません。

■無償保証範囲

使用状態、使用方法および使用環境などが、取扱説明書、ユーザーズマニュアル、製品本体注意ラベルなどに記載された条件、注意事項などに従った正常な状態で使用されている場合に限定させていただきます。

生産中止後の有償修理期間

(1) 当社が有償にて製品修理を受け付けることができる期間は、その製品の生産中止後７年間です。
　　生産中止に関しましては、販売店経由にて連絡いたします。
(2) 生産中止後の製品供給（補用品も含む）はできません。

機会損失、二次損失などへの保証責務の除外

無償保証期間の内外を問わず、当社の責任に帰することができない事由から生じた損害、当社の製品の故障に起因するお客様での機会損失、逸失利益、当社の予見の有無に問わず特別の事情から生じた損害、二次損害、事故補償、当社製品以外への損傷およびその他の業務に対する保証については、当社は責任を負いかねます。

製品仕様の変更

カタログ、マニュアルもしくは技術資料に記載されている仕様は、お断りなしに変更される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

メ　モ

三菱電機エンジニアリング株式会社
MITSUBISHI ELECTRIC ENGINEERING COMPANY LIMITED

営業統括部
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-13-5（日本地所第一ビル）
TEL（03）3288-1108　FAX（03）3288-1575

東日本営業所（関東甲信越以北担当）
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-13-5（日本地所第一ビル）
TEL（03）3288-1729　FAX（03）3288-1575

中日本営業所（東海北陸地区担当）
〒450-0002　名古屋市中村区名駅三丁目14番16号（東洋ビル）
TEL（052）565-3435　FAX（052）541-2558

西日本営業所（近畿以西担当）
〒530-0003　大阪市北区堂島2-2-2（近鉄堂島ビル7F）
TEL（06）6347-2985　FAX（06）6347-2983

中国営業G（中国地区および愛媛県担当）
〒730-0037　広島市中区中町7-41（広島三栄ビル）
TEL（082）248-5390　FAX（082）248-5391

九州支店（九州地区担当）
〒810-0001　福岡市中央区天神4-1 -7（第3 明星ビル）
TEL（092）721-2202　FAX（092）721-2109

オペレーションに関するお問い合わせは

産業システム事業部
技術サポートセンター（開発企画部）
TEL.0568-36-2068　FAX.0568-36-2045
受付／9:00～17:00　月曜～金曜（土曜・日曜・祭日は除く）

50EM8665-A(0610)MEE

本マニュアルは、エコマーク認定の再生紙を使用しています。

2006年10月作成

この印刷物は2006年10月の発行です。なお，お断りなしに仕様を変更することがありますのでご了承ください。